

Corporate Social Responsibility

CSRレポート 2016



太平洋工業株式会社

企業理念

わが社はメーカーとして

- 1 技術開発に努め、お客様の要望に応えた高いレベルの商品を提供していきます。
- 2 人間尊重を基本に、社員が“働く楽しみ”、“創る満足”を得る“場”を提供していきます。
- 3 地球環境保全に努め、社会から期待される“良い会社”でありつづけます。

経営理念

「オープンでクリエイティブな経営」 「e-companyの実現」

e-companyとは

engineering

技術を売り物に

ecology

環境に配慮し

e-business

eビジネス

emotional

活力に溢れ

efficiency

効率的に仕事をし

enrich

収益を確保しながら

enjoy

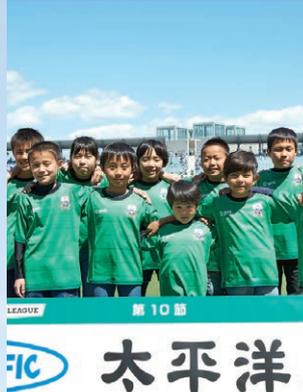
豊かな生活を楽しむ

PACIFICの行動指針

P rinciple	基本	基本を確認、基本に徹する
A ction	実行	自ら考え、自ら実行
C reation	創造	創造は喜び。 創意工夫をこらす
I nnovation	革新	現状維持は後退。 革新で明日を開け
F airness	公正	事実の把握、 客観的基準で判断
I nformation	情報	確実な報・連・相と徹底議論
C hallenge	挑戦	失敗を恐れるな

PACIFICの技術開発指針

P recision	精密	高精度加工技術 緻密な現象観察と解析
A ctive	能動	めざす姿実現に向けての活動
C reative	創造	発想の転換、独創、 違いの本質究明
I nventive	発明	特許の取得、差別化、 優位性の確保
F ine	洗練	スマートな技術・製品
I mprove	進歩	昨日より今日、今日より明日
C omposite	総合	技術の複合・合成・集積

特集 1 P07 トップ対談 価値創造の 原理原則 	特集 2 P11 トヨタ自動車プロジェクト表彰 ダブル受賞 レクサスRX に搭載された 新技術 	特集 3 P13 太平洋工業の ダイバーシティ 多様性を 活かす 環境づくり 	特集 4 P15 持続可能な社会への貢献 CSR活動 ハイライト 
---	---	---	--

イントロダクション	企業理念・経営理念	01
	目次	02
トップメッセージ		03
	編集方針	04
会社紹介	会社案内・事業案内	05
特集 1	トップ対談 価値創造の原理原則	07
特集 2	トヨタ自動車プロジェクト表彰 ダブル受賞 レクサスRXに搭載された新技術	11
特集 3	太平洋工業のダイバーシティ 多様性を活かす環境づくり	13
特集 4	持続可能な社会への貢献 CSR活動ハイライト	15

マネジメント	太平洋工業グループのマネジメント	17
	太平洋工業グループの CSRマネジメント	19
	CSR活動の実績	21
	ガバナンス	23
経済的側面の報告	顧客重視とサプライヤーとの協働	25
社会的側面の報告	従業員とともに	27
	社会貢献活動	29
環境的側面の報告	環境経営の実践	31
	地球環境との調和・コミュニケーション	33
第三者意見		34

持続可能な社会への貢献と 未来に向けた価値の創造を実現し



当社は、日本初のバルブコア専門メーカーとして1930年に創業し、昨年8月に創業85年を迎えることができました。そして、2015年度の連結売上高が、初の1,000億円台となりましたことは、ひとえに、当社を支えてくださるステークホルダーの皆様のおかげと深く感謝申し上げます。

当社グループは、長期ビジョン「PACIFIC GLOBAL VISION 2020」に対する具体的アクションプランとして中期経営計画「OCEAN-18」を策定し、その目標値である「連結売上高1,200億円、連結経常利益率8%台、海外売上高比率50%以上、総資産回転率1.05回転以上」の達成に向け着実に邁進しています。近年、大型の設備投資を続けてきましたが、今後はそれらを稼働させ収益に結びつけていくステージとなります。海外においては、新たに設立した米国テネシー州と中国常熟市の拠点が本格稼働を開始しました。中国拠点は、今後、中国におけるTPMS(タイヤ空気圧監視システム)の装着法規化を見込み、大きな市場拡大のチャンスに向け生産体制を整えています。

事業拡大により経済基盤を固める一方で、企業価値の向上をめざした取り組みも行っています。

経営の品質・透明性・公平性と迅速な意思決定を重視し、社外取締役の増員や、「監査役室」の設置、コーポレートガバナンス・コード全項目の遵守などを推進しており、あらゆるステークホルダーに対して誠実であり、それが「信頼」として返ってくるような企業でありたいと考えています。

また、企業が持続的発展を続けるためには、持続可能な社会の構築に貢献しなくてはならないと考え、ものづくりを通じた社会課題の解決は最優先課題であると捉えています。自動車の軽量化に寄与する超ハイテン材のグローバル生産体制確立、樹脂材料の汎用化、燃費向上や事故防止に役立つTPMSの改良、燃料電池自動車用リリーフバルブの開発など、安全性、環境性を追求した製

てまいます。

品開発・ものづくり改革を加速しています。更に、他社との共同開発にも積極的に取り組み、次世代を見据えた新たな性能や品質の製品・技術を生み出すことで、人と車が共生できる豊かな社会の実現に寄与できるものと考えています。

そうした技術開発や競争力ある企業活動の源泉となるのは「人財」です。当社グループは昨年、国内外を含めた多様な人財の心を一つに束ねるための普遍的な価値観として「PACIFIC VALUES」を策定しました。これは、「創業の精神」や「社是」、当社の歴史を踏まえつつ先達の労苦や想いをまとめたもので、「夢と挑戦」「信頼と感謝」という心構えをグループ全体で共有し、時代に左右されない企業をめざしてまいります。同時に、「ものづくりは人づくり」の信念のもと、高い企業力を維持するために必要な次世代人財を継続的に育成できるよう努めています。特に、海外拠点の自立化を目標としたローカルスタッフの教育には力を入れており、現地でマネジメントができる体制構築を図っています。

また、多様な人財が、生き活きと働けるダイバーシティの推進、継続して働ける環境を整える子育て・介護に関する制度の充実、ワークライフバランスの取り組みなどに努め、今以上に活力ある組織づくりを加速してまいります。

当社グループは、持続可能な社会への貢献と、ステークホルダーの皆様との絆を築く活動に積極的に取り組み、未来に向けた価値の創造と企業経営の質の向上を実現してまいります。皆様には、今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長

小川信也

CSRレポート2016 編集方針

太平洋工業グループは、持続可能な社会の構築に向け、より多くのステークホルダーの皆様との双方向コミュニケーションの充実を図るため、2007年から「CSRレポート」を発行しています。

今年で10号目となる2016年度版は、Webサイトを活用して網羅的に情報を開示するとともに、より多くのステークホルダーの皆様にお読みいただきたい内容を、特集を中心としたダイジェスト版(冊子)にまとめています。皆様の忌憚のないご意見をお待ちしております。

その他の媒体

■Webサイト

CSRに関する情報を網羅的に掲載し、当レポートでご紹介できなかったCSRの取り組みや、数値・データ等の詳細を開示しています。

■インベスターズガイド

事業概況や財務情報など投資家向けの情報をわかりやすくまとめたもので、日本語版と英語版を作成し、開示しています。

■有価証券報告書

金融商品取引法に基づき、期末時点での企業情報や、事業内容、業績、株式情報、リスク情報、財務情報などをまとめたもので、文章主体で詳細まで記載されている開示資料です。

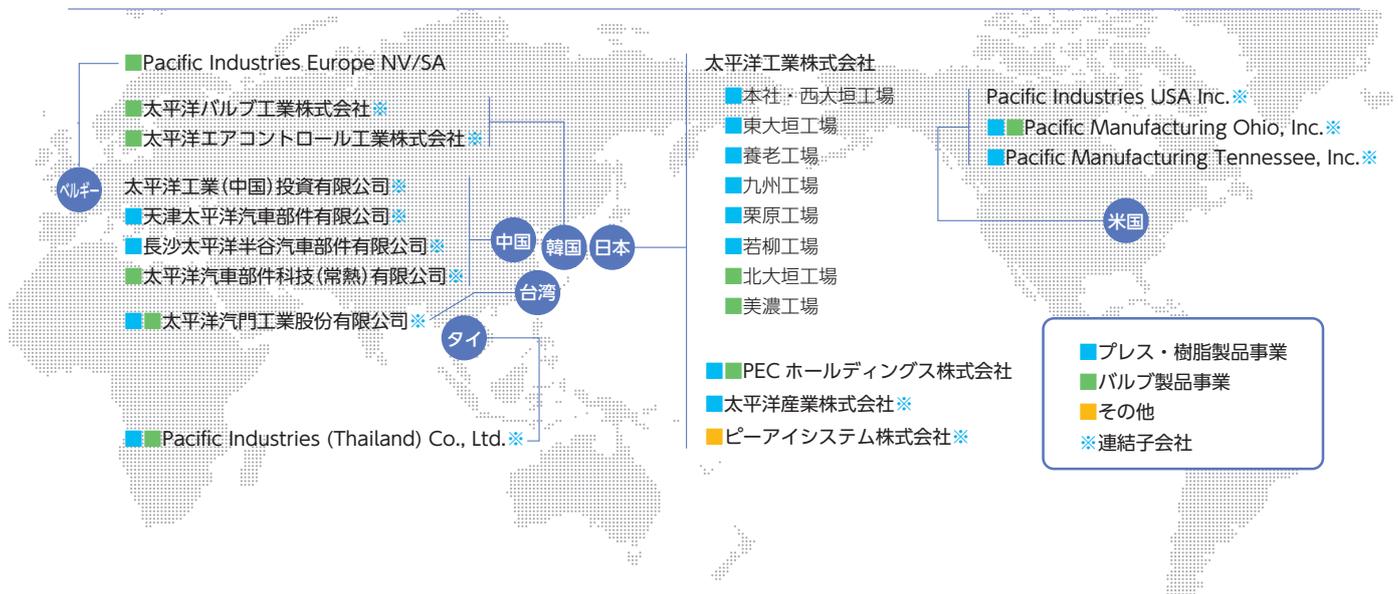


対象期間	2015年4月1日～2016年3月31日 (一部発行時点での最新情報を記載しています)
対象範囲	当社および一部太平洋工業グループを含む
発行日	2016年9月30日
発行部署	太平洋工業株式会社 総務部 TEL 0584-93-0113 FAX 0584-92-1804
参考とした ガイドライン	環境報告ガイドライン(2012年版) GRIガイドライン(第4版)

会社概要

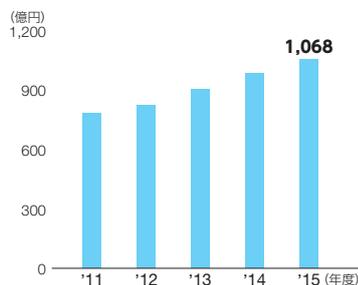
社名	太平洋工業株式会社 PACIFIC INDUSTRIAL CO., LTD.	社員数	1,660名 (連結3,450名)
設立	1930年8月8日	事業内容	自動車部品、電子機器製品等の製造ならびに販売
所在地	[本社] 岐阜県大垣市久徳町100番地 TEL 0584-91-1111 (大代表)	売上高	1,068億円 (2015年度連結) 631億円 (2015年度単独)
代表者	代表取締役社長 小川 信也	経常利益	90億円 (2015年度連結) 66億円 (2015年度単独)
資本金	45億296万円 (2016年3月末時点)	国内拠点	国内 8工場
株式上市	東京証券取引所・名古屋証券取引所市場第一部上場	関係会社	国内子会社 2社 海外子会社 12社 (米国・中国・台湾・韓国・タイ・ベルギー) 関連会社 1社
単元株式数	100株		
証券コード	7250		

グローバルネットワーク

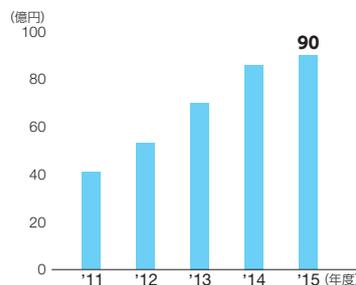


連結業績ハイライト

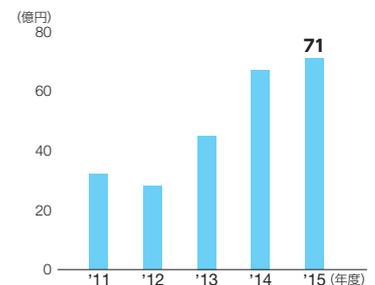
● 売上高



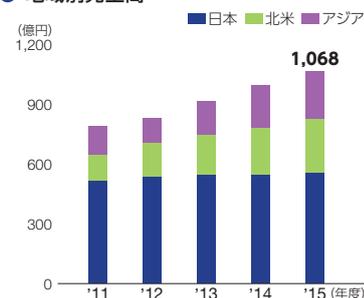
● 経常利益



● 親会社株主に帰属する当期純利益



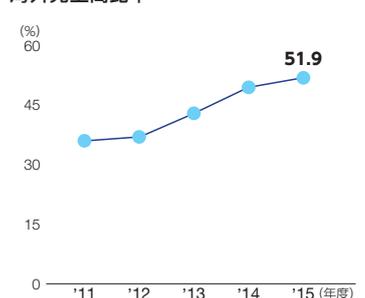
● 地域別売上高



● 総資産／純資産



● 海外売上高比率



製品紹介

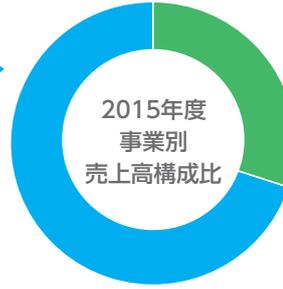
太平洋工業グループは、創業以来培った高い技術力とノウハウを活かした各種自動車関連製品を提供しています。

プレス・樹脂製品事業

69.6%

売上高 744億円

営業利益 17億円



バルブ製品事業

30.0%

売上高 320億円

営業利益 61億円

プレス・樹脂製品事業

当社はトヨタ自動車を主要顧客とする自動車用プレス・樹脂製品の総合メーカーで、自動車の骨格となる車体部品や、ヒンジ・バッテリーケース等の機能部品、オイルパン等のエンジン周辺部品、エンジンカバーやホイールキャップをはじめとする樹脂製内外装品の生産を行っています。高度加工技術の専門メーカーとして小型化、軽量化、低コスト化はもちろんのこと、お客様のニーズに対応した付加価値の高い製品・サービスの提供に努めています。

プレス製品



樹脂製品



バルブ製品事業

創業製品であるタイヤバルブ製品は、世界No.1品質と技術力で国内トップメーカーとしての地位を確立するとともに、グローバル生産・販売体制で、国内はもとより海外でも高いシェアを確保しています。また、カーエアコン等の空調・冷媒を制御する制御機器製品や次世代バルブとして開発したTPMS送信機は、お客様のニーズに対応し、次世代技術による更なる進化と、環境に優しい製品開発を推進しています。

タイヤバルブ製品



電子機器製品



制御機器製品



TPMS製品



価値創造の原



2015年 文化勲章受章者
京都大学名誉教授

中西 重忠

太平洋工業 代表取締役社長

小川 信也

記憶を司る神経伝達物質の受容体の解明など、世界的な脳神経科学者として活躍され、2015年文化勲章を受章された中西重忠先生をお招きし、研究活動と企業経営との共通点や、価値を創造していく上で大切にすべきことなどについて、社長の小川信也が対談させていただきました。

理原則

2015年 文化勲章受章者

京都大学名誉教授 中西重忠氏 プロフィール

1942年1月7日生まれ、岐阜県大垣市出身。

(公財)サントリー生命科学財団生物有機科学研究所所長

1971年京都大学大学院医学研究科修士、1974年医学博士、1981年京都大学医学部教授、2000年大学院医学研究科長・医学部長、2005年退官・京都大学名誉教授。

主な業績は、記憶、学習の分子メカニズムの解明。脳生理学の分野では第一人者。2015年文化勲章、2009年日本学士院会員、2006年文化功労者、2000年米国科学アカデミー会員、1995年アメリカ芸術科学アカデミー外国人名誉会員、朝日賞、武田医学賞、中日文化賞、東レ科学賞、ベルツ賞、上原賞、慶應医学賞、米国グループ神経科学賞、日本学士院賞・恩賜賞など多数受賞。

「楽しさ」こそがモチベーション

小川: 中西先生は、地元大垣市の興文小・中学校の卒業生で私の大先輩にあたります。2010年に、興文小学校の「藩校創立170周年記念事業」の際、先生に記念講演をお願いしたのがご縁で、「文化勲章受章記念講演会・祝賀会」でもお目にかかりました。地元を愛し、子供たちに夢を与える貴重なお話と、科学技術に対する強い思いをお持ちで、ぜひ、当社のCSRレポートでも対談をさせていただきたいと思い、今回お招きいたしました。

中西: ありがとうございます。興文小学校の講演では、子供たちが非常に積極的で、質問が多くあったのを覚えています。

小川: 今日、対談の前に、プレス・溶接・樹脂加工の東大垣工場をご見学いただき、最近の技術開発についてご覧いただきましたが、当社のものでづくりへの率直な感想をお聞かせください。

中西: はい、こうしたものづくり会社を見るのは数少なく、実際に拝見させていただきお話を伺うと、その技術開発の質の高さのみならずそこに至るまでのプロセスで、いかに効率性を高めるかなど、実によく工夫しておられると感じました。こうして世界と戦っておられるのかと大変感銘を受けました。

小川: 先生の研究も、それこそ世界に名を轟かせていますが、何か共通点はあったでしょうか？

中西: 私達の研究分野は医学、生命科学と違う分野ですが、自分たちで原理を見つけていく楽しさを持っているという点では共通点があると思います。工場見学と技術展示で説明して下さった社員の方々が、大きな技術開発の方向性を見据えつつ、それぞれの技術開発のステップでしっかりとした目的を持ち、新たな挑戦をしていることをすごく楽しそうに説明されていたのが印象的でした。私たちの学問分野でも、自然の摂理を理解するために自分たちで原理を見つけて新たな挑戦をして目的を達成していきます。世界で誰も知らないのに、自分たちだけが知っているワクワク感は研究開発の原動力です。

小川: 確かに楽しさに勝るモチベーションはないかもしれませんがね。今回は、当社がこれまで苦勞して取り組んできた改善活動や技術開発の成果を、世界的な研究者である中西先生にお話できるということで、説明する社員も大いに刺激を受けたのだと思います。

中西: それから、自動車産業は国際的な競争の中で最先端をいかになくてははいけませんね。そういう意味では我々の研究も国際的に先端をいくかどうか、非常にシビアな努力が必要になります。そういう意味でも共通性を感じました。

5年という時間軸と発想の転換

小川: 国際的に最先端を走り続けなくてはならないということですが、先生の研究室では、どのようなかたちで研究を進めておられるのでしょうか？

中西: 大学の研究室は20~30名くらいで構成されています。研究員の大学院生は医学部の場合4年間在籍し、その後は他の研究室や外国に行くのが通例です。研究予算は、だいたい1年間に1億円程度を文部科学省から科学研究補助金としていただいています。これは5年間しか保証されません。ですから、4年目位で大きな成果を生み出し、それに基づいて次の5年間は、こういうテーマで研究をやるということを申請し、審査委員会で認められなくてはなりません。基礎研究といえども、短いタームでシビアに成果が求められ、それが10年20年のタイムスパンで大きな成果に結びつく必要があります。

小川: なるほど、逆に我々企業は結果が全てと思われがちですが、結果を生み出すためには、研究開発にしても人づくりにしても、中長期的な視野が重要です。当社の主要製品であるTPMS(タイヤ空気圧監視システム)は、初代の製品が完成する10年位前から自動車業界の中ではニーズがあり、研究をスタートしました。前半の5年である程度基礎技術を完成させ、後半の5年で周辺技術を開発している共同開発先と積み上げを行い、ようやく完成に至りました。この技術開発は早過ぎてもダメですし、遅かったらもっとダメですね。

中西: そうした時間的な視野の広さに加えて、着想の広

さも重要ですね。先ほどの技術説明で拝見した世界初のオールウレタンエンジンカバーは、材料からこだわって研究開発を進めたことで完成したと伺いました。

小川: このオールウレタンエンジンカバーの開発は、角度を変えてみるといろんな可能性があるという好例ですね。こうして開発した軽量化材料とウレタンフォームで、エンジンの振動や音を吸収しようと積極的に取り組んだ結果、世界初の製品となったわけです。

中西: 我々の研究でも、全く違う発想で攻めると、今までとは全く違う結果が出てくることがあります。最大の成果と言われるタンパク質受容体の発見は、タンパク質自体の研究では全然うまくいかなかったのです。そこでタンパク質を生成する元となる遺伝子まで踏み込んで分析してみようと発想を転換した結果、一挙に解決しました。しか

「ダメかな」と思った時に見えてくるものがあるのです。

中西: 素晴らしいですね。集団における価値の創発という意味では、最近人材の多様性ということが言われていますが、基本的には責任者が、それぞれがみんな違った能力を持っていること自体を認識していないとダメですね。自分の価値と自分の判断で、こうあるべきだといったら価値創造は起こりません。そして違う能力をどうやって活かすか。ですから一生懸命議論をして、トライさせて、そして最後は守ってあげる。こういった見極めと信頼が大切ですね。そうすると強いチームができるのです。

小川: 認めるということですね。そのためにはお互いがリスクをとることが大事ですね。最近では、専門性が高く、当社の弱いところを補ってくれる中途入社社員が多くなりました。皆優秀ですが、風土の違い等から当社の組織



自分の頭で考えて、 ユニークであることが 重要です

Shigetada Nakanishi

し、発想ややり方を変える時には勇気がいりますよ。成功するかどうかかわからないですからね。

徹底的に話し合うことで 多様性を活かす

小川: 中西先生は、新しいことに取り組む際、スタッフに対してどのように指導しておられるのですか？

中西: 取り組む前に徹底的に議論をします。なぜこれをやるべきなのか。どういう新しい展開がもたらされるのか。どこに問題があるのか。そういったことを周辺グループのスタッフも入れて何回も議論をします。そうするとより良い方法が出てきます。そして、納得して皆で取り組むことが大事です。

小川: 当社の超ハイテン材の冷間プレスやホットプレスなどの技術開発でも、皆で議論を重ねて推進しています。トップランクの人の話を聞くために足を運んだり、技術書を読んだり、材料組成を変えてみたりと、各々が努力して完成に近づけていきます。そして何回も失敗をしてトライを繰り返し、

に融合できなかつたりすることも散見します。そのような時に大切なのは、やはり徹底的に話し合うことですね。そうして信頼関係ができた時には一気に開発のスピードが上がります。このような動きができる現場は、リーダーの度量の部分大きいと感じています。

中西: そうですね。異なる意見があってもそれを包摂し、多様な価値観を認め合い、その中から生まれるものが面白いし、新しい発想や価値につながっていくのです。

原理原則を理解して 行動することの大切さ

中西: 私たちの場合、直接医療現場に採用されなくても原理を見つけるだけで評価されますが、企業は実用化しないと評価されないのが大変なところですね。

小川: そうですね。しかし原理をつかむことは重要です。私たちの開発は、実験計画法的に条件を変えながら進めている中で、解決できたというようなこともあります。しか

し、その背景にある原理原則を把握していないと、それは単なる偶然の産物で、技術とは呼べません。それは研究開発に限らず、改善活動や課題への取り組み方においても原理原則を考えることは大変重要だと思います。

中西：原理原則を考えるということは、自然と対話することです。環境問題などもそうなのですが、基本的には科学として論理的に考えないとダメですね。自然との共生ということも、頭の中だけで判断しては解決しません。遺伝子工学でも、神が見つけた遺伝子进行操作するのはどうかといった、宗教論的な観点から非常に危険視された時期がありました。でも本来は、科学的な問題として、メリット・デメリットを明確にすべきです。ただし、科学だから正しいと決めつける前に、どんな問題が起こるのか想像できるナイーブな感性も大変重要です。そのうえで、

私は非常に印象に残っています。1つ目は「丈夫な体と素直な心を育てること」。基礎体力がないとダメです。まっすぐでないダメだということですね。2つ目は「自分の好きな事を見出して突き進むこと」。好きなことにこそ才能が発揮される。3つ目は「自分の頭で考えること」。安易にインターネットなどで検索したりするのではなく自分の頭で考えることですね。そして4つ目は、「国際的な視野を広げること」でしたね。

中西：これは、実は研究室でいつも学生に伝えている言葉です。これから先10年単位でものを考えるとすると、特に重要なのは自分の頭で考え、流行に流されないということです。日本の研究はアメリカよりも半年遅れているものが多い。だからそれを真似たり、追いかけていても勝てません。自分の頭で考えて、ユニークであることが重

持続可能な経営を見据えて、 「太平洋らしさ」とは 何かを問う

Shinya Ogawa



むやみに怖がったり恐れたりしないで、科学的な視点で正面から向き合う。それは、貴社が原理原則を重要視されるのと同じですね。

小川：我々は、この原理原則を理解し行動系に置き換えるために、「現地現物で真因追究」という取り組みを行っています。何か起こったら、起こった現場に行って現地現物で真の原因を追究しています。また、5回なぜを繰り返す「なぜなぜ分析」を行っています。なぜを繰り返すと、本質的な課題や原理原則が浮かび上がってきます。ここを押さえることで、同じ問題を防止するのみでなく、新しい設計に織り込むといった全体のレベルアップにつながっていきます。

未来を拓く4つのキーワード

小川：冒頭にお話した2010年の興文小学校の記念講演で、中西先生が小学生たちにプレゼントされた言葉が、

要です。

小川：企業経営も、持続可能な経営を見据えて、「太平洋らしさ」とは何かを問うことだと思います。昨年の創業85周年の折に、「創業の精神」や「社是」、当社の歴史を振り返り、先達の想いやリーダーたちの哲学を取り纏め、太平洋工業グループが共有していく普遍的な価値観として「PACIFIC VALUES」をまとめました。「夢と挑戦」・「信頼と感謝」をキーワードに、私たちの心構えを海外も含めて共有していく基盤としています。先生のメッセージも、今日のご示唆も同じ様なお考えであると確信しました。私たちメーカーは、自分で考え、いいものづくりをしないとイケません。そのためには、海外も含め社員全員が心も体も健康で、好きなことに没頭できる環境を作り守っていくことが大事です。それがグローバル競争に勝つ力につながっていくものと思います。これからも、更なる革新に挑み続け、未来に向かって新しい価値を創造していきたいと思います。

本日はありがとうございました。

レクサスRXに 搭載された新技術

当社は自動車部品メーカーとして、環境負荷を軽減し、サステナブルな社会の構築に貢献したいという考えのもと、軽量化や燃費向上に寄与する製品や、より高効率な加工方法・製造工程を研究・開発しています。また、ニーズに応じて他社との共同開発にも積極的に取り組んでいます。

セレクトラブル カラートリムホイールの開発

近年、アルミホイールに装着するフルホイールキャップの採用が増えてきています。これは、軽量化に特化した骨格アルミホイールを樹脂製ホイールキャップでカバーすることにより、背反関係である「軽量化」と「空力性能」を両立し、結果として燃費が向上するためです。

このアルミホイール用ホイールキャップの進化形とも言えるのが、レクサス RXに採用されたセレクトラブルカラートリムです。アルミホイールに樹脂トリムを組み付けることにより、軽量化と優れた空力性を実現するとともに、これまでないデザイン性を付加しています。世界初の取り付け構造により、トリム装着が容易になり、複数用意されたカラーラインアップから好みの色を選択して取り付けることが可能です。



この部分を
取り換え可能



樹脂トリム



プレス・樹脂事業部 樹脂技術部 設計2グループ

寺井 大貴

従 来品以上の性能と、デザイン性を進化させた新しいホイールをつくらうとトヨタ自動車、ホイールメーカー、そしてホイールキャップ専門メーカーである当社を加えた3社共同で2011年に開発をスタートしました。幾度となく大きな課題に直面しましたが、その度に3社が集まり、何時間もアイデアを出し合って解決してきました。苦労の甲斐あり新型プリウスにも同じ設計構造を持つホイールを採用していただくことができました。

フルホイールキャップとは異なる新たなホイール加飾パーツとして、更に機能性を高め、デザイン性に富んだ製品を提案できるように、今後も開発に取り組んでいきたいと思っています。

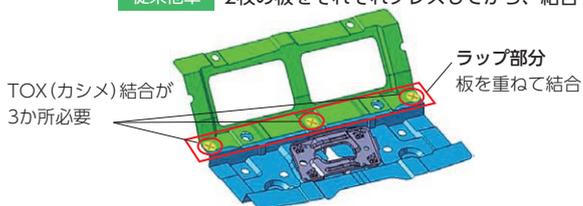




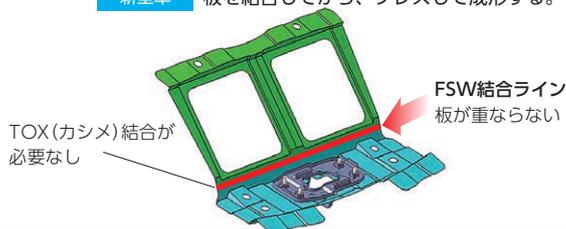
レクサスRX

独自開発ツールによるバリレスFSWの開発

従来他車 2枚の板をそれぞれプレスしてから、結合する。



新型車 板を結合してから、プレスして成形する。



車両燃費向上を目的とした軽量化の一環としてアルミ部品の採用拡大が進んでいます。当社は2009年に、車両アルミ部品のテーラードブランク化^(※)に対するFSWの適用検討を開始し、2015年に国内および米国拠点にて量産化を実現しました。

FSW (Friction Stir Welding: 摩擦攪拌接合) は1991年に英国のThe Welding Institute (TWI)が開発し、国際特許を取得した技術で、ツールと呼ばれる棒状の工具を高速で回転させながら材料と接触させ、摩擦熱を利用して攪拌接合する工法です。当社は株式会社UACJと共同で、専用ツールを利用したFSW工法を開発し、バリの抑制や加工速度の向上に成功しました。この工法を用いることで、従来は結合のためにラップ(重複)させていた部分が不要となるほか、部品点数・金型数・工数の削減が可能となり、軽量化、低コスト化を実現しています。

※…板厚や材質の異なる複数の鋼板をプレス成形前に溶接して1つの板材にすること。

プレス・樹脂事業部 プレス技術部 生産技術1グループ

瀨本 篤

開発者の声

2013年から技術開発部のメンバーとして、この開発に関する接合条件等の基礎技術の確立やプレゼンに携わってきました。2015年に生産技術部門へ異動し、設備導入をはじめとする生産準備を担当し、量産までを見届けることができました。課題であったコスト低減や、良品条件の確立を実現できたことは、アルミプレス部品を手掛けるメーカーとして一つの強みになったと思います。

しかしFSWの技術は、2012年にTWIが持つ基本特許の有効期限が切れ、ライセンスフリーになっており、今後競合他社においても技術の確立が進んでいくと考えられます。遅れを取らないよう、更に製品開発を積極的に進め、低炭素社会の実現に寄与していきたいと思っています。



多様性を活かす環

従業員は会社の財産であると考える当社にとって、個々の多様性や能力を活かしてはつらつと働ける環境をつくることは重要課題です。年齢・国籍・文化・価値観の違う従業員が共に働くことで相乗的に成果を生み出し、企業の発展に繋がることをめざし、制度や風土の定着を図っています。特集3ではそれらの取り組みのご紹介として、社員の声をお届けします。

障がい者雇用担当者

管理企画センター 人事部
ひとづくりグループ 担当員

馬淵 里美

2007年から障がい者の採用、配属、定着支援までを一貫して行う。企業在籍型職場適応援助者（企業内ジョブコーチ）、生活相談員の資格取得。2016年「障がい者専用相談窓口」を開設し、相談員として働きやすい環境づくりを推進中。

障がいは、その方の個性と捉え、個性を活かすことができる職場の選択に努めています。私が大切にしていることは定着支援であり、常に相手の気持ちに寄り添い、**困りごとがあればすぐに相談できる信頼関係**を築けるよう、コミュニケーションを積極的に取るようにしています。採用した方から「太平洋工業に入社して本当に良かったです。幸せです。」など嬉しい言葉を聞くこともあり、やりがいにつながっています。



海外事業体からの技術研修生

プレス・樹脂事業部 プレス技術部
生産技術1グループ

リン チャファン

林 嘉煌

（太平洋汽門工業股份有限公司(台湾)より出向中）

台湾拠点から技術研修生として
2014年から2年間の予定で当社に出向中で、
日本のものづくりを学んでいる。

台湾ではプレス・溶接製品を担当していましたが、日本ではプレス製品を中心に業務を担当しています。**専門用語は難しいですが、同僚から助けを得ながら、自分で関係者とコミュニケーション**をとり、仕事を進めています。仕事をする中で、**日本は難しい課題にも諦めずに挑戦する文化がある**と感じます。日本のいいところや、生産技術のノウハウをしっかり学び、台湾拠点の成長に活かしたいと考えています。



女性の活躍推進

初めてお客様の所に足を運んだ際、「女性営業マンの方は初めてです。」と少々珍しく思われたことを覚えています。家事や育児との両立で、時間制約が多い中での営業活動は難しい面も多々ありますが、**女性ならではの視点で、細部**

まで配慮できる「女性営業マン」としてお客様との架け橋になっていきたいと思います。私の所属する営業部は、半数以上が女性です。私自身、ワークライフバランスの重要性も十分に感じており、みんなが**「仕事」と「私事」を好循環させ、相乗効果**を高められる環境づくりに努めていきたいと考えています。

バルブ・TPMS事業部 営業部
営業グループ 担当員

松原 由紀子

入社以来、営業業務に従事し、現在は監督職としてバルブ製品、電動リール等の営業や、海外輸出を担当するなど、幅広い業務に携わる。



境づくり

高齢者



高齢者継続雇用制度利用者

プレス・樹脂事業部 第一製造部 第一技術員室
改善係 工範

今瀬 増男

プレス事業に長年従事し、台湾拠点に7年、中国拠点に6年半出向。海外では、技術伝承や人財育成に取り組んだ。2013年、60歳定年を迎え、現在は継続雇用制度を利用している。



定年を迎えて3年半、現在の業務は生産の仕組みの改善や若手の育成等、各拠点での支援が中心で、海外拠点にも出向きます。**マニュアルに頼り切らない、現地現物・臨機応変な支援**と、人間関係構築を重視した育成指導を心がけています。**勤続48年目となり、長年の経験があるからこそこの提案**ができますし、仕事を継続できることは日々のモチベーション維持になり、会社・制度利用者双方にとってメリットのある制度だと感じています。

海外人財の活躍

プレス・樹脂事業部 プレス技術部
生産技術1グループ

許 頤

中国出身。日本の大学を卒業後、2013年に入社。
プレス製品の生産技術業務を担当している。



小さな頃から車に携わる仕事に就きたいと思っており、住み慣れた中国を離れ、日本の大学で学び、当社に入社しました。希望していた現部署に配属されましたが、叱られることも多々ありました。しかし、先輩方から仕事のことだけでなく、**社会人としての知識や文化を家族の様に温かく教えてもらい**、最近では、海外や遠隔地へ長期的な技術支援に行けるようになりました。**これから多くを学び、皆から頼られる存在**になりたいです。



育児休業・時短勤務制度利用者

管理企画センター 総務部
総務グループ

新家 やす子

第一子、第二子出産時にそれぞれ育児休業を取得し、復帰後は数カ月間の時短勤務制度を利用。現在はフルタイム勤務で業務と子育てを両立している。

育児休業の取得で、子ども達の可愛く著しい成長を日々見守ることができました。復帰後は時短勤務を利用し、母子共に無理なく環境の変化を受け入れられました。**休業前と同様に正社員として仕事を任せてもらえることに安心**しましたし、こうした制度の利用を認めてくれる会社・職場に恩返しすべく「**限られた時間で効率的に**」という意識で仕事に取り組みました。女性が長期的に働ける制度を整えることは、本人や家族はもちろん、人財育成という観点から会社にとってもメリットがあると感じています。



外国

CSR活動ハイライト

当社は持続可能な社会の発展に貢献するため、CSR活動を推進しています。

2015年度に行ったCSR活動のハイライトをご紹介します。(一部2016年度実績も含む)



神戸町の小中学生たちからのメッセージ

大垣市への寄付

未来を見据える

創業85周年を記念した地域への寄付

2015年8月、当社は創業85周年を迎えました。この節目に、当社の企業活動に対してご理解を頂いている地域社会の皆様へ感謝の気持ちを示すため、当社の工場がある岐阜県、福岡県、宮城県内の7つの自治体に対し、青少年健全育成を目的として、計550万円の寄付を行いました。北大垣工場のある神戸町では、この寄付金を小中学校用の図書購入に充てられ、各校の生徒からお礼のメッセージをいただきました。



ラジコイベントを開催

来場者へのプレゼント

地域を支える

地域のスポーツ振興

当社はサッカーJ2リーグに所属するFC岐阜をオフィシャルスポンサーとして支援しています。

2015年より、当社がシーズン中の1試合のメインスポンサーとなる「太平洋工業サンクスマッチ」を開催しています。2016年はこの試合に従業員、地域のサッカー少年団関係者ら約1,000名を無料招待し、来場者へのプレゼントや、ラジコ体験イベントなどを行いました。ハーフタイムには当社のよさこいソーランチームが演舞を披露し、会場を盛り上げました。



ハーフタイムでのよさこい演舞



チケットを手に喜ぶ子供達



学びを 育む



講演される天野教授

公益財団法人小川科学技術財団創立30周年記念事業

小川科学技術財団は、1985年に当社創業者である故小川宗一が私財1億円を投じて立ち上げたもので、2015年に創立30周年を迎えました。これを記念した300万円の特別助成を含め、2015年度は総額1,700万円の助成を行いました。また、記念事業として、岐阜県大垣市内において、2014年ノーベル物理学賞受賞者・名古屋大学の天野浩教授を講師にお招きした講演会を開催し、研究者や公募の市民等約700名が集まりました。



講演会の様子



2015年度助成式

足場を 固める

コーポレート
ガバナンス
報告書

コーポレートガバナンス・コードへの対応

コーポレートガバナンス・コードについては、その精神を象徴した、「5つの基本原則」を柱に、持続的な企業価値向上に向けて、全73項目遵守のための取り組みを進めています。

現在までに、インターネットによる議決権行使、株主総会招集通知の早期発送・発送前開示、経営陣から独立した社外役員による「独立相談窓口」の設置、社外取締役と社外監査役との定期連絡会の開催等を実施しています。今後、更なるコーポレート・ガバナンスの向上に向け、継続的改善を行っていく予定です。

命を 育てる

太平洋里山の森活動

2016年3月に開催した太平洋里山の森活動では、やまぐりの苗木の植樹のほか、親子の参加者は木の椅子づくりを体験しました。この椅子の材料となっているのは、里山の森で伐採された間伐材です。目の前の森で育った木を使って、椅子を作ることは、子供たちにとって循環型社会を学ぶいい機会となりました。

また、何度も土砂で埋まってしまったビオトープは、場所を移して作り直し、参加者は丸太や石垣で周りを囲うなど補強作業を行いました。完成したビオトープにはおたまじゃくしやシオカラトンボなどの生き物の生息が観察されています。



やまぐりの植樹



親子で椅子づくり



新しいビオトープ

マネジメント

■ 取締役・監査役



1	代表取締役社長	小川 信也
2	取締役副社長	石塚 隆行
3	取締役専務執行役員	鈴木 克也
4	取締役専務執行役員	小川 哲史
5	取締役常務執行役員	粥川 久
6	社外取締役	黒川 博 ※
7	社外取締役	本島 修 ※
8	監査役	永田 博
9	監査役	藤井 康彦
10	社外監査役	高橋 勝弘
11	社外監査役	榎原 章夫

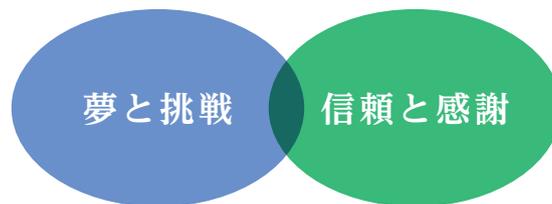
2016年6月18日就任の役員
※金融商品取引所が定める独立社外取締役

■ 「PACIFIC VALUES」

2015年8月、創業85周年を機に、「創業の精神」や「社是」など、当社の歴史や、創業者・経営トップら先達の労苦と想いを中心に、太平洋工業グループ社員が共有していく普遍的な価値観として「PACIFIC VALUES」をまとめました。海外売上高比率50%以上の1,000億円企業として「トップクラスのグローバルな部品メーカー」をめざして行く今こそ、創業の原点に立ち返ることが大事であると考え、グループ社員が共有する「心構え」を、「夢と挑戦」「信頼と感謝」という言葉で表しました。

長期ビジョン「PACIFIC GLOCAL VISION 2020」達成に向け、中期経営計画「OCEAN-18」を推進する中、日常活動における精神的支柱、判断・実行の拠り所としてまいります。

私たちの心構え



「PACIFIC VALUES」の位置付け

PACIFIC VALUES



価値観体系

創業の精神

創業者が大切にしたい想い。

社是

創業時の想いを規律・姿勢としてまとめたもの。

私たちの心構え

社是を実践する上で、太平洋工業グループの全社員が共有していく心構え。



理念体系

企業理念

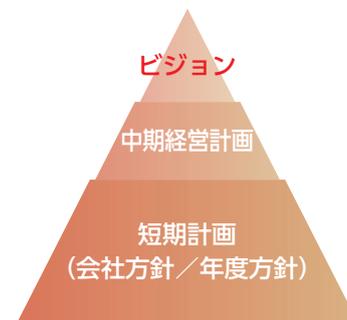
社是を基本として、経営の基本姿勢と使命をまとめたもの。

経営理念

企業理念をベースにした経営トップの想い。

行動指針/技術開発指針

判断・行動する際の基本方針。



方針体系

ビジョン

10年後のありたい姿。

中期経営計画

ビジョンを実現するためのアクションプラン。

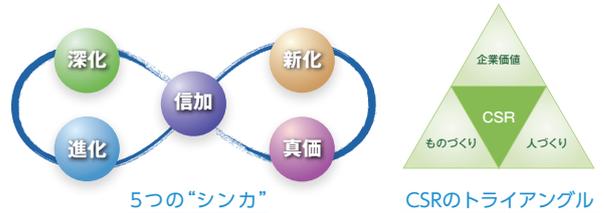
短期計画

中期経営計画を踏まえた年度計画。

■ 長期ビジョン「PACIFIC GLOCAL VISION 2020」

自動車産業の急激かつグローバルな構造転換、地球規模の環境問題・エネルギー問題、企業の社会的責任、グローバル化・技術革新など、我々を取り巻く環境は、予想をはるかに超えるスピードで大きく変化しています。こうした環境変化を大きなチャンスと捉え、創業80周年の節目を機に、創業100周年に向けての一里塚として、これからの10年を見据えた長期ビジョン「PACIFIC GLOCAL VISION 2020」を策定し、私達グループの夢とミッションを明確にしています。

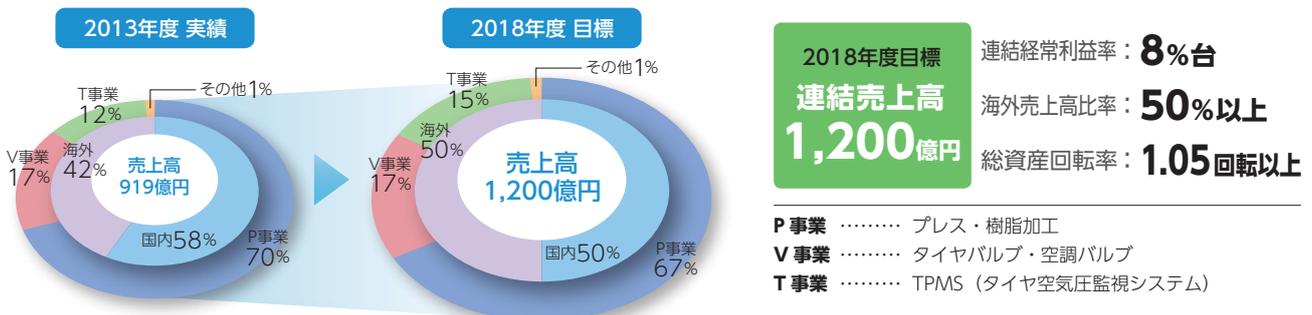
長期ビジョンは、CSRを経営の最重要課題と位置付け、「5つの“シンカ”」で事業構造を革新し、「融合経営」による企業価値の向上をめざしています。



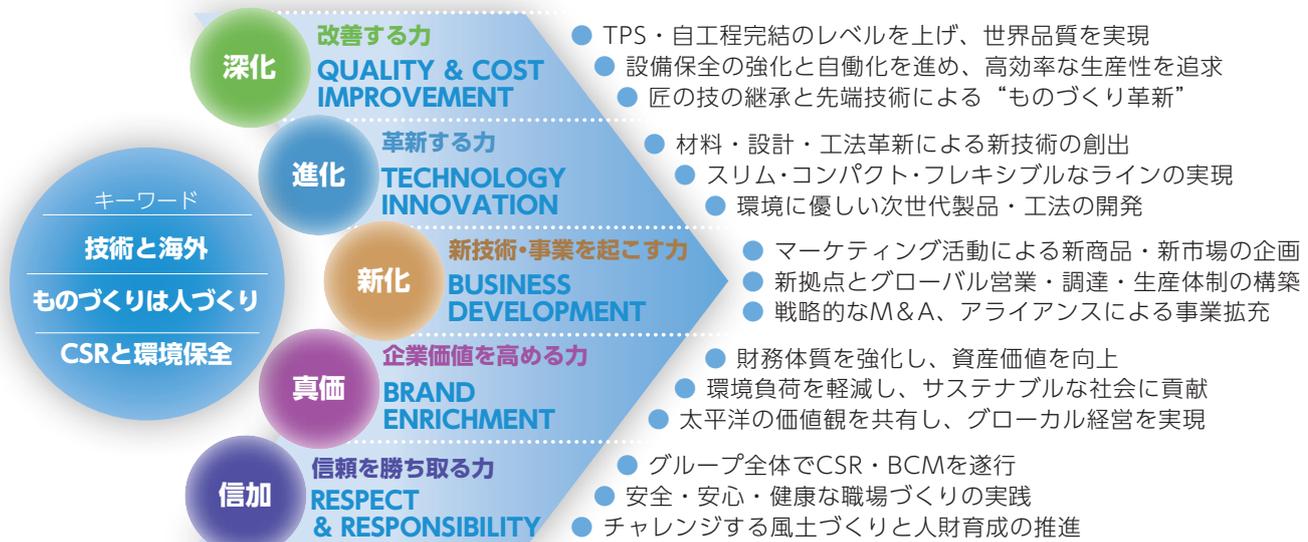
■ 中期経営計画「OCEAN-18」

長期ビジョン「PACIFIC GLOCAL VISION 2020」の実現に向けた具体的なアクションプランとして、2018年度を最終年度とする中期経営計画「OCEAN-18」を推進しています。「トップクラスのグローバルな部品メーカー」をめざし、「技術と海外」「ものづくりは人づくり」「CSRと環境保全」をキーワードに、長期ビジョン達成に向けた各種施策を5つの“シンカ”で具現化しています。

「OCEAN-18」では、これまでの積極的な拠点展開と投資の成果を刈り取りつつ、多客化や現地化など改革のスピードを加速し、将来の飛躍に向けた成長基盤を構築していきます。



トップクラスのグローバルな部品メーカーをめざす



TPS…Toyota Production System CSR…Corporate Social Responsibility BCM…Business Continuity Management

太平洋工業グループの

CSRマネジメント

当社グループは、社会から信頼され期待される健全な事業活動こそがCSRの基礎であると認識し、各国・各地域のあらゆる事業活動を通じて、社会の持続的な発展に貢献できる「真のグローバル企業」をめざしています。

当社グループの事業活動は、お客様をはじめ、株主様、お取引先様、地域社会、従業員など、当社を取り巻く多様なステークホルダーの皆様との関わりの中で進められています。企業価値を高め、CSRを実践していくためには、ステークホルダーの皆様とオープンで公正なコミュニケーションを図り、長期的観点でWin-Winの関係を構築することが重要であると考えています。

ものづくり
イベントへの出展



お客様

P25



製品検討会

CSR方針

「お客様第一」の精神のもと、お客様から信頼され、満足していただける安全で高品質な環境に優しい製品・サービスの提供に努めます。

コミュニケーション方法

顧客満足度調査、国内外での技術展示会、イベントへの参加、WEBサイトでの情報開示

解決すべき
社会課題

→ 交通事故の削減

お取引先様

P26

グローバル会向け
AED講習



CSR方針

お取引先様を尊重し、対等・公平な立場で強固なパートナーシップを築き、相互信頼に基づく共存共栄をめざします。

コミュニケーション方法

会社方針説明会、グローバル会活動、仕入先表彰、倫理・苦情相談窓口、独立相談窓口

解決すべき
社会課題

→ 災害時のレジリエンスの向上

CSR方針

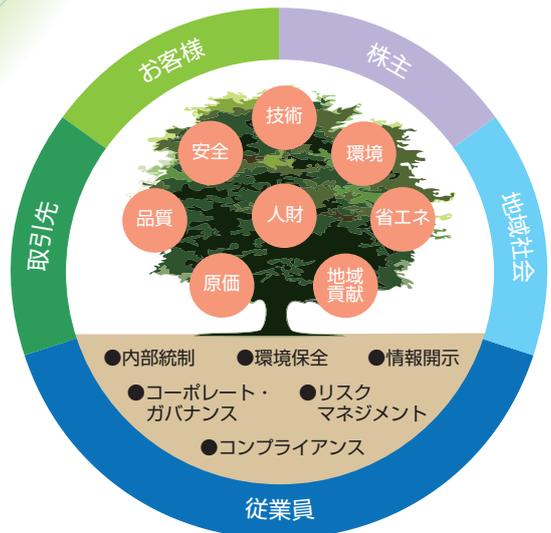
人間尊重を基本に、心身ともに健康で安心して働ける職場づくりと、従業員が働きがいと誇りを持ち、創造力・チャレンジ精神を発揮できる環境・しくみづくりを推進します。

コミュニケーション方法

労使協議会、教育研修、評価面談、安全衛生委員会、倫理・苦情相談窓口、独立相談窓口、社内報(毎月発行)、福利厚生イベント、各種表彰制度

解決すべき
社会課題

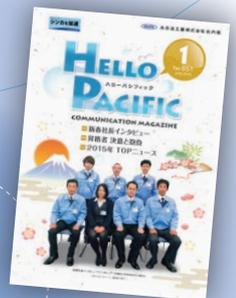
→ 安全な職場づくり
→ 少子高齢化による労働者不足解消



様々なリスクや脅威の中で、ステークホルダーの皆様から信頼・期待される企業であり続けるために、コンプライアンスやリスクマネジメント等をすべての事業活動の根幹と位置づけています。



永年勤続
表彰



社内報表紙

従業員

P13、27



アナリスト向け決算説明会



インベスターズガイド2016



CSR方針

株主の皆様からの信頼と期待に応えるため、双方向コミュニケーションを基本とし、常に長期的視点に立ち、企業価値の向上に努めます。

コミュニケーション方法

株主総会、個人・機関投資家説明会、決算説明会、IRイベントへの参加、個別ミーティング、インベスターズガイドの発行(日本語版・英語版)、WEBサイトでの情報開示

解決すべき
社会課題

➔ 長期の投資市場の醸成

CSR方針

【環境】

環境に優しい製品・技術の開発を強化するとともに、全ての工程において環境保全と環境負荷削減に配慮したものづくりを推進します。

【社会】

国内外の法令及び社会的規範を遵守し、文化や慣習を尊重するとともに、国際社会への貢献と、地域発展の推進に努めます。

【社会貢献】

地域社会との密接な連携と協調を図り、様々な社会貢献活動を積極的に実施し、「良き企業市民」としての役割を果たします。

コミュニケーション方法

リスクコミュニケーション、工場見学、地元自治会との交流、地域貢献活動、スポーツ振興、教育機関での出張教育

解決すべき
社会課題

- ➔ 地域コミュニティの活性化
- ➔ 気候変動への対応
- ➔ 廃棄物の削減

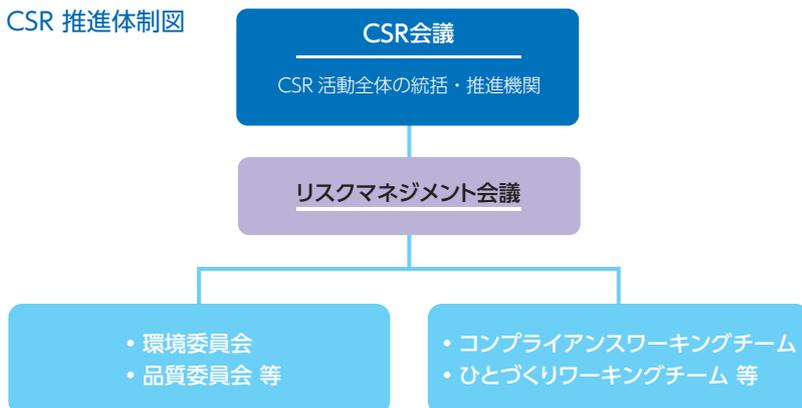


地域懇談会



高校生の工場見学

CSR 推進体制図



当社では、CSR活動全体の統括・推進機関として社長が議長を務めるCSR会議、リスクマネジメント会議のもと、環境委員会やコンプライアンスワーキングチーム等の各組織において、企業活動全般について法律面や企業倫理面からのチェックを行っています。中長期の重要なリスクの洗い出し、分析、評価、その対策立案、実施により、リスクの低減を図っています。

CSR活動の実績

2015年度に当社グループが取り組んだCSR活動の成果について、ステークホルダー別にご報告します。

(一部、2016年度の成果もご紹介しています)

基盤となる CSR



パワーハラスメント教育



BCP図上訓練

- 太平洋工業グループの共通の価値観として「PACIFIC VALUES」を策定
- 中期経営計画「OCEAN-18」達成のための各種施策の実施
- 2015年11月、コーポレートガバナンス・コードを反映した報告書開示(73項目フルコンプライ)
- eラーニングを利用した教育実施(内部統制・情報セキュリティ他)
- 社員向けコンプライアンス便りを毎月発行、コンプライアンスメールマガジンを月2回配信
- ハラスメント教育の実施(技能系監督職向けパワーハラスメント教育)
- 各工場におけるBCP図上訓練実施
- 独立相談窓口の設置
- 情報セキュリティ強化のための事務所出入口への電気錠導入(養老工場、美濃工場に導入し、岐阜県内全5工場で導入が完了)

今後の課題

海外事業体も含むグループ全体でのCSR活動の強化と、全体のレベルを底上げする。また、グループ一丸となって「OCEAN-18」達成に向けた取り組みを進めていくため、共通の価値観「PACIFIC VALUES」を周知・定着させる。

お客様



米国テネシー拠点でのプレス機稼働式



新型レクサスRXプロジェクト表彰

- 技術展示会を実施(国内5回)
- 海外の2つの新拠点が本格稼働を開始(中国：常熟市、米国：テネシー州)
- 栗原工場にてプレス・溶接の一貫工場が稼働開始
- 2015年度設備投資額 119億円
- トヨタ自動車より新型レクサスRXプロジェクト賞をダブル受賞(セレクトダブルカラートリムホイールの開発、独自開発ツールによるバリレスFSWの開発)
- ダイハツ工業より「貢献賞」を受賞

今後の課題

お客様のニーズはもちろん、安全性・環境性向上など、社会のニーズに応えた製品・技術開発を行うため、自社の強みを磨くとともに、他社との共同開発や技術支援も視野に入れ、相乗効果により新たな価値を創出する。

お取引先様



JAMA/JAPIA統一データシート説明会



会社方針説明会

- 紛争鉱物への取り組み推進
- JAMA/JAPIA統一データシート説明会開催(全2回、個別質問会1回開催、お取引先27社参加)
- 主要仕入先様への会社方針説明会や優良仕入先表彰によるパートナーシップ強化
- 主要仕入先様へのCSR・コンプライアンス・BCM教育の実施
- 仕入先様の災害対策底上げとBCP対策支援

今後の課題

災害等、緊急時の迅速な初動対応から生産復旧までを、当社と連携して円滑に行うための教育訓練を実施する。



2015年度の主な取り組みと2016年度の目標の一覧はWEBサイトをご覧ください。
<http://www.pacific-ind.co.jp/csr/result/>

従業員



米国テネシー拠点オープンハウス



ワイワイフェスタ

- 新人事制度の運用による役職・資格制度、評価制度、賃金制度の見直し
- 女性の育児休業取得率 8年連続100% (2015年度は12名が取得)
- 障がい者雇用促進 (雇用率2.03%で法定雇用率2.0%を3年連続達成)
- 岐阜県より「岐阜県子育て支援エクセレント企業」に認定
- 男性従業員の子育て参画促進のための制度拡充
- 社員向け福利厚生イベント「ワイワイフェスタ」第20回記念大会開催

今後の課題

女性活躍推進法に基づいた職場環境や制度の拡充と、早期メンタルケアを目的とした全従業員へのストレスチェックを実施する。

株主様



株主懇談会



招集通知

- 年間配当26円 (中間12円、期末14円) 昨年比2円増配
- インベスターズガイド (日本語版・英語版) 発行
- 株主総会の土曜日開催、株主懇談会実施
- 招集通知の発送日早期化、発送前のホームページ開示、英文開示 (ホームページ開示)
- インターネットによる議決権行使導入
- 名証IRエキスポへの出展

今後の課題

株主様との対話を重視したIR活動の更なる推進と、ROEを高め、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けた取り組みを実施する。

地域社会



社員有志がFC岐阜の後援会へ加入



工場周辺清掃ボランティア

- 創業85周年記念事業として7自治体へ550万円を寄付
- サッカーJ2リーグ「FC岐阜」のオフィシャルパートナー支援
- 次世代育成支援 (科学教室、工場見学、産官学連携、インターンシップ、環境講座等)
- 工場周辺・地域のボランティア清掃や被災地でのボランティア活動
- 小川科学技術財団の活動 (助成活動、創立30周年記念講演会開催)

今後の課題

地域社会の活性化に向け、学生や子どもたちの学習意欲向上やものづくりに触れる機会の創出を図るとともに、継続的に地域のスポーツ・文化振興に寄与する。

環境



超モノづくり部品大賞 受賞式



九州工場太陽光パネル

- 「太平洋里山の森」活動推進 (植樹、間伐材での椅子づくり、ビオトープ造り) 参加者250名
- CO₂排出量削減、軽量化、環境負荷物質削減、廃棄物低減等をテーマとした環境に優しい製品・工法・技術の開発 28件 (目標の25件を達成)
- 太陽光発電設備の運用 (電力使用量全体の5%を発電)
- 燃料電池自動車用リリーフバルブがモノづくり日本会議・日刊工業新聞社共催の超モノづくり部品大賞「環境関連部品賞」を受賞
- 西大垣工場で、LPガスを都市ガス化しCO₂排出量削減

今後の課題

里山活動などによる社員・地域への環境意識の啓発や、低炭素社会実現に向けた環境配慮型製品を開発する。



マネジメント

ガバナンス

太平洋工業グループは、経営の効率性と企業活動の公正性や透明性を維持・向上させるためのマネジメント体制を構築し、CSR経営の継続的な推進を図っています。

for MANAGEMENT

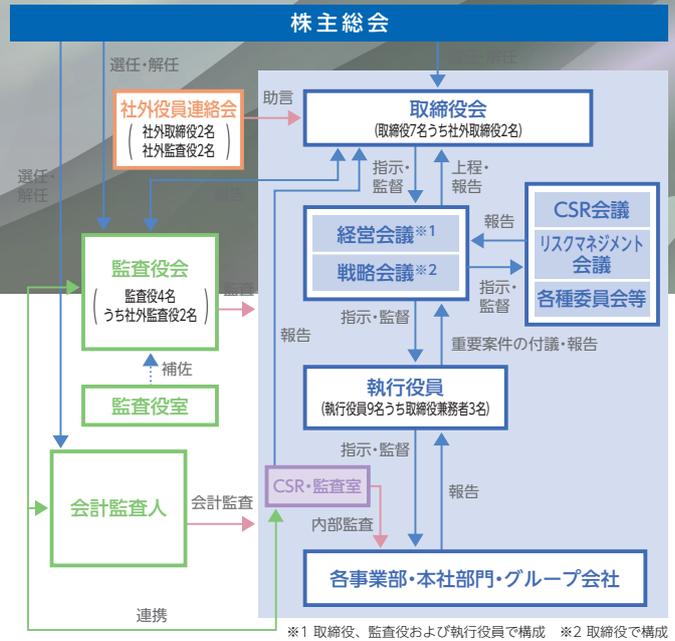
W E B コーポレート・ガバナンス リスクマネジメント コンプライアンス
 S I T E <http://www.pacific-ind.co.jp/csr/governance/> <http://www.pacific-ind.co.jp/csr/risk/> <http://www.pacific-ind.co.jp/csr/compliance/>

コーポレート・ガバナンス

当社は、2015年11月に、コーポレートガバナンス・コードを反映した報告書を東京証券取引所に開示しました。本コードの精神を象徴した「5つの基本原則」を柱に、持続的な企業価値向上に向けて、全73項目の遵守を基本方針としています。本コード適用初年度としては、インターネットによる議決権行使、経営陣から独立した社外役員による「独立相談窓口」の設置、社外取締役と社外監査役との定期連絡会の開催等を実施しています。

当社は、株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人等の法律上の機関に加え、戦略会議、経営会議を毎月開催し、取締役会に諮る前に十分審議を尽くすとともに、迅速に経営課題に対処しています。取締役会を、経営の基本方針の決定と業務執行の監督を行う機関と位置づけ、業務執行を担当する執行役員制度を採用することにより、監督機能と執行機能を分離し迅速な意思決定を実現しています。また、社外取締役2名による監督機能を通して、取締役会の意思決定と取締役の職務執行の適法性を確保しています。

監査体制としては、監査役制度を採用し、社外監査役2名を含めた監査役4名が、内部監査部門と連携し業務の適正を確保しています。



内部統制システム

当社では、2006年5月の会社法施行に伴い、取締役会で「内部統制システムの基本方針」を決議しました。この基本方針のもとコンプライアンスの徹底、リスクマネジメントの強化などの体制を整備し、国内外のグループ会社全体で、内部統制システムの充実・強化を図っています。更に、金融商品取引法に基づき、財務報告の信頼性確保に向けた内部統制システムの構築と運

用・評価を進め、内部監査人による有効性評価と監査法人による外部監査を受けています。最終的には、財務報告に関わる内部統制は有効であると判断し、2016年3月31日を基準日とした内部統制報告書を提出しており、監査法人からも適正である旨の無限定適正意見を得ています。

リスクマネジメント



化学物質のリスクアセスメントセミナー

当社グループは、事業活動を行う上で重要な影響を及ぼすリスクを把握し、適切な対応をとるため、2008年3月に「リスクマネジメント規定」「リスクマネジメント実施要領」を策定し、リスクマネジメント体制を構築しました。全社の各種委員会・ワーキングチーム・部門等が行動計画を策定し、リスクの抽出・分析・評価・対応を実施しています。PDCAサイクルを回すことにより、リスクの未然防止や低減、リスク管理レベルの継続的な向上・改善を図っています。

また、国内・海外の子会社においても、各社に統括リスクマネージャーを設置しており、各社の状況や事業形態に沿った活動を推進し、グローバルでのリスクマネジメントを推進しています。



防災訓練



BCP図上訓練



応急処置訓練

BCMの推進

当社では、自然災害の発生や感染症の拡大など、緊急事態に遭遇した場合、事業資産の損害を最小にとどめつつ、事業の継続と早期復旧を可能とするため、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続の手法・手段などを事前に取り決めておく対策を進めています。

年1回の全社一斉防災訓練や、各工場での図上訓練などによ

り、BCP(事業継続計画)の有効性の検証(BCM)を行い、防災対策の継続的改善に取り組んでいます。

また、毎月11日を「太平洋工業防災の日」として、従業員の防災意識を向上させるための取り組みを定期的実施するほか、全従業員へ地震発生時の行動基準を配布するなど、ルールや計画の告知・徹底に努めています。

コンプライアンス

当社グループは、公正で誠実な事業活動を行うため、「太平洋工業グループコンプライアンス方針」を策定し、その精神を国内外で共有しています。また、コンプライアンスをステークホルダーの期待に応えるという視点でとらえ、従業員一人ひとりが高い倫理観を持って行動するための指針として「太平洋工業グループ行動基準」を作成し、全社員に配布し、職場ごとでの読み合わせ等による周知徹底を行っています。

全社的な推進体制としてコンプライアンスワーキングチームを設置し、コンプライアンスの浸透・定着推進活動をはじめ、不祥事の未然防止や、コンプライアンス徹底に向けた継続的改善を行っています。

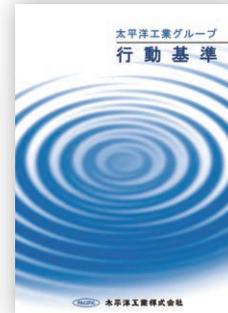
啓発・教育では、階層別教育、専門教育に加え、毎年3月をコンプライアンス推進月間と定め、eラーニングを利用した教育など意識高揚に繋がる取り組みを行っています。また、身近なテーマを取り上げて解説する「コンプライアンス便り」を月1回、「コンプライアンスメールマガジン」を月2回全社配信しているほか、社内イントラネット上の「コンプライアンス掲示板」に過去の教育資料や、事例を集めたQ&A集を掲載するなど、従業員の

意識向上に努めています。

2016年5月には、コーポレートガバナンス・コードの適用を契機に、これまで以上に社会的責任を果たすため、従来の社内相談窓口に加え、経営陣から独立した相談窓口を設置しました。通報・相談者のプライバシーを厳守し、通報・相談したことで不利益を被ることがないように保護しています。



▲ コンプライアンス掲示板



▲ 太平洋工業グループ行動基準

適時適切な情報開示

当社は、透明性の高い企業情報・財務情報の適時適切な開示とともに、重要情報に該当しない内容についても積極的な開示に努めています。

当社ウェブサイトの「IR・投資家情報」ページには、IRに関する多彩なコミュニケーションツールを掲載しています。アナリスト・機関投資家向けには、決算説明会の開催や、個別面談の要請にもお応えしています。また、個人投資家説明会の開催、名証IRエキスポへの出展や、多くの方にご出席いただけるよう土曜日に株主総会を開催するなど、対話を重視したIR活動を推進しています。

■ 当社ホームページ <http://www.pacific-ind.co.jp>



株主総会

名証IRエキスポ2016





for VALUE CHAIN

経済的側面の報告

顧客重視とサプライヤーとの協働

太平洋工業グループは、お客様に満足していただける製品・サービスの提供に努めるとともに、お取引先様との強固なパートナーシップを築き、相互信頼に基づく共存共栄をめざしています。

WEB お客様とともに
SITE <http://www.pacific-ind.co.jp/csr/relation/guest/>

お取引先様とともに
<http://www.pacific-ind.co.jp/csr/relation/customer/>

世界No.1をめざした こだわりのものづくりを推進

当社は、人づくりこそがものづくりの基盤であると認識し、太平洋工業のものづくりDNAの継承と更なる進化に向け、徹底的なムダ排除による原価低減に取り組んでいます。トヨタ生産方式によるものづくりを推進し、現地・現物・現認で、「カイゼン活動」をグローバルに実施しており、SQCDD[※]でNo.1のものづくりをめざしています。

2015年度は製品立ち上がりから補給品になるまでの履歴管理を徹底する「母子手帳活動」や「朝市活動」、職場メンバーで問題を洗い出し、改善方法を検討する「ブレイクダウン活動」に継続的に取り組むとともに、製品カテゴリ(ショップ軸)ごとの「不具合真因追究活動」や、データに基づいた問題解決能力の育成を目的とした「SQC(統計的品質管理)推進活動」を開始しました。また、新たに、技術系スタッフを対象にした「現場改善教育コース」による人材の育成や、事務系スタッフを対象に従来の事務業務を見直す「仕事のやり方改善活動」を推進しており、全社で改善マインドの醸成を図っています。

※SQCDD: Safety(安全) Quality(品質) Cost(価格) Delivery(納期) Development(開発)

安全第一、品質第一、お客様第一

当社は、創業以来培ってきた固有・保有技術に磨きをかけ、常に進化、イノベーションを追求するクリエイティブ企業をめざしています。新たな価値を創出し、お客様に満足していただける高品質な製品を提供するため、後工程に不良品を流さない「自工程完結」を目標に、設計・生産準備の段階から各工程で品

質を造り込み、グローバル基準の品質保証体制を構築しています。ISO9001は全事業所で認証取得し、開発から生産に至るまでの一貫した品質保証体制を更に強固なものにしています。



▲ ISO9001登録証



米国拠点での改善活動



台湾拠点での改善活動

CSの向上

当社では、営業部や品質保証部がお客様から収集した情報をもとに定期的に顧客満足度調査を行い、継続的改善に努めるとともに、お客様からの期待やニーズにお応えするためのCS(Customer Satisfaction)向上に取り組んでいます。当社の新製品・新技術・新工法などをお客様にご紹介する「技術展示会」等も国内外で積極的に開催しています。



技術展示会

TOPICS ダイハツ工業より貢献賞を受賞

2016年5月、当社はダイハツ工業より「貢献賞」を受賞しました。この受賞は、プロドゥア社(マレーシアダイハツ)のラゲージヒンジ発注先である現地ローカル企業に対し、ヒンジ専門メーカーである当社が技術支援を行ったことが高く評価されたものです。



公正な取引のために

当社は、お取引先様とともに成長し、対等・公平な立場で利益を分かちあえる強固なパートナーシップを築くことが重要であると考え、長期的な共存共栄の実現をめざしています。こうした考えは、「購買基本方針」として明文化し、当社ホームページ「購買情報」で公開しています。調達における法令遵守も強化しており、下請法を遵守した公正な取引の徹底を図っています。

また、主要仕入先様に対しては、「会社方針説明会」等を定期的に行い、方針や事業の目標、課題の共有化を図っています。当社の主要仕入先様36社で構成される「太平洋グローバル会」は、相互信頼の関係のもとに経営基盤の強化、ものづくり力の向上を図ることを目的として3部会に分かれ活動しています。評価制度を導入し、年に1回優秀な仕入先様を表彰するなど、パートナーシップの強化に努めています。



仕入先様表彰



グローバル会BCPセミナー

グローバル会マイナンバー制度勉強会

太平洋グローバル会の活動

「太平洋グローバル会」は、当社に部品や金型などを納入する主要仕入先で構成する団体で、各種講演会への参加、工場見学会の開催、職場安全衛生確認の実施、安全・品質向上の取り組み、危機管理やCSR勉強会を実施するなど、当社と一体となり、様々な活動に取り組んでいます。2015年度は、コンプライアンス教育やBCP(事業継続計画)セミナー、安全体感教育、リスクアセスメント教育などサプライチェーン全体でリスクマネジメント強化の取り組みを行いました。また、10月より導入された「マイナンバー制度」についての講習会を開くなど、新たな制度や法改正に関する知識習得と対策について学ぶ機会を設けています。

CSR調達の推進

当社は、サプライチェーン全体でのCSR推進をめざし、「仕入先CSRガイドライン」に基づく継続的な活動を展開しています。2011年度からは、仕入先様各社で「CSR診断シート」による自己評価を実施、企業体質の強化に役立てていただいています。

また、サプライチェーン全体で環境活動、環境負荷物質管理を推進するため、2011年度に策定した「グリーン調達ガイドライン」は、内容の見直しを行いながら運用しています。また、2013年度からJAMA/JAPIA統一データシートを採用し、納入

品の成分情報調査を行うとともに、シートを正しく利用するため、お取引先様への教育を行っています。紛争鉱物問題については、お取引先様と連携してサプライチェーンにおける透明性を確保し、責任ある鉱物調達の実践に取り組んでいます。

今後も、お取引先様と一体となって環境活動に取り組むとともに、各海外拠点での展開を推進していく予定です。



▲ グリーン調達ガイドライン



社会的側面の報告

従業員とともに

for EMPLOYEES

WEB 従業員とともに

SITE <http://www.pacific-ind.co.jp/csr/relation/staff/>

太平洋工業グループは、「人間尊重」を基本に、従業員が心身ともに健康で安心して働ける職場づくりと、働きがいと誇りを持ち、創造力・チャレンジ精神が発揮できる環境・しくみづくりを推進しています。

人財育成の推進

当社では、「ものづくりは人づくり」をキーワードに、コア人財の確保と次世代人財の育成を推進しています。OJTを基本とした技術・技能の伝承に注力するほか、毎年、年間教育訓練プログラムを作成し、職種・階層ごとに教育を実施しています。また、海外で活躍できる人財の育成を目的に、若手従業員を対象とした海外短期出向や語学教育を実施するとともに、海外会社で現地人財を採用し、日本で技術教育を行うなど、グループ全体でグローバル人財育成に取り組んでいます。



製品を使った新入社員向け原価管理教育

ダイバーシティ(多様性)の推進

当社では、従業員は会社の財産であり、個々の多様性や能力を生かして、はつらつと働ける組織をつくるのが会社の発展に繋がると考えています。個性・価値観・文化・慣習・歴史などをお互いに尊重し、生き活きと働ける職場環境づくりに努めています。外国人や高齢者、障がい者雇用等にも積極的に取り組んでおり、障がい者の雇用率は2.03%と、法定雇用率2.0%を3年連続で達成しています。



育児休業取得者への家庭教育研修会

女性の活躍推進

全女性従業員のうち、役職に就いている女性は11% (21名) で、性別・年齢に関わらず、その能力と経験を生かせる環境づくりを推進しています。男女問わず、能力のある人財を採用・選考し、能力に応じた業務の割り振りが必要な教育を行っています。さらに自己啓発費用補助や資格取得表彰制度により、自身のキャリア形成への後押しをしています。

2016年4月からは、女性活躍推進法に基づき、当社における課題や目標などを含む行動計画を策定し、取り組みを進めています。

今後も、多様な働き方を選択できる職場環境づくりとともに、女性リーダー層の育成と更なる女性活躍をめざしていきます。

太平洋工業の従業員数

※2016年3月末

	男	女	合計
人数	1,487人	168人 (うち管理職3名)	1,655人
平均年齢	39.8歳	39.9歳	39.8歳
平均勤続年数	15.0年	15.9年	15.1年

従業員の状況

		2011	2012	2013	2014	2015(年度)	
育児休業者数	女性	育休取得者	10人	8人	10人	8人	12人
	取得率	100%	100%	100%	100%	100%	
	男性	育休取得者	0人	1人	0人	0人	0人
障がい者雇用比率		2.06%	1.95%	2.07%	2.04%	2.03%	
高齢者再雇用者数		24人	33人	48人	55人	62人	

※数値はすべて個別

福利厚生イベント 「ワイワイフェスタ」



家族と一緒に参加できる
職場対抗バレーボール大会や抽選会を開催しました。

テネシー拠点で オープンハウスを開催



会社に家族を招いて食事やゲームを楽しみ、
職場見学も行いました。

特別支援学校生徒の 就労推進で岐阜県教育長表彰



第32回岐阜県障がい児・者の教育と福祉
振興大会並びに岐阜県特別支援学校PTA研
修大会において「働きたい！応援団ぎふ」推
進企業として教育長表彰を受賞しました。

厚生労働省より次世代認定マーク
「くるみん」を取得しています。



ワークライフバランスの推進

当社では、従業員が働きがいや成長を実感しながら、充実した私生活との両立ができる環境・風土づくりの実現をめざし、「絆と成長」をスローガンに、労使一体でワークライフバランスを推進しています。

育児に関しては、法を上回る諸制度とその周知に加え、「育児休業支援プログラム」で育児休業者への教育・フォローを実施、育児との両立をサポートしています。更に、2016年2月、男性の子育て参画促進を図るため、配偶者に収入がない場合には育児休業に積立有休分を使うことで収入を減らさず休業取得できるように制度を拡充しました。

また、岐阜県より、仕事と家庭の両立支援に取り組む優良企業として「岐阜県子育て支援エクセレント企業」に当社が認定されました。

介護に関しては、「介護休業ハンドブック」を社内イントラネット上で公開し、情報提供を行っており、2015年度は1名(男性)が制度を利用しました。



岐阜県子育て支援エクセレント企業認定式

安心・安全な職場づくり

当社は、安全第一を基本とし、従業員が健康で安全・安心に働ける職場環境の実現に向け、人づくり・環境整備を主体としたグローバルな安全管理活動を推進しています。リスクアセスメントの取り組みでは、潜在リスクの洗い出しと、顕在化した問題点・課題に優先順位をつけて対策することで、組織的なリスクの低減と、労働災害ゼロに向けた継続的改善を図っていま

す。また、2015年度は従業員の心身両面にわたる健康づくりの支援として、産業医による健康指導や食生活改善指導などのほか、快適な職場環境づくりを目的に、外部講師を招き、役員・部長を対象とした「メンタルヘルスセミナー」を実施しました。また、労働安全衛生法の一部改正を受け、全社員を対象としたストレスチェックの取り組みも始めています。



メンタルヘルスセミナー

休業災害度率数率グラフ(労働時間100万時間当たりの休業者数)





社会的側面の報告

社会貢献活動

太平洋工業グループは、良き企業市民として社会との共生を図り、地域や社会から信頼され期待される「真のグローバル企業」をめざしています。豊かな社会の実現と持続的な発展に貢献するため、国や地域に根ざした社会貢献活動を推進しています。

for SOCIETY

WEB 社会貢献活動

SITE <http://www.pacific-ind.co.jp/csr/social/>



夏休み科学教室

地域の小学生を対象に、毎年、科学教室を開催しています。子供たちは発電の機能・しくみを学び、ペットボトルで作った風車で風力発電に挑戦しました。その電気を蓄電池に溜め、自動車模型を走らせるレースも行いました。

工場見学

東大垣工場では地元大学生・高校生・教員らを対象に工場見学を開催し、栗原工場では地元の小学生の見学受け入れを行いました。子供たちや、地域の皆様のものづくりへの興味・理解を深めるとともに「働く」ことへの意識向上を図っています。



次世代育成

次世代を担う子供達や、学生、研究者を支援する様々な取り組みを行っています。

地域の中学校・高校への出張教育

大垣市の中学生が地元地域について学ぶ土曜授業「ふるさと大垣科」に、当社から役員・社員が参加し、当社の歴史や技術開発について語りました。また、文部科学省からスーパーグローバルハイスクールに指定されている大垣市内の高校において、当社の海外出向経験者が講師となり、実体験に基づくエピソードを語る授業を行っており、グローバル意識の醸成を図っています。



タイの子会社が学校備品寄贈

タイの子会社では毎年近隣の小学校に、教育備品を寄贈しています。2015年度は学習に役立てていただくため、プリンター、コピー機、プロジェクター等のIT機器を寄贈しました。



小川科学技術財団

当社の創業者故小川宗一が創設した(公財)小川科学技術財団は、科学技術の振興と地域産業の発展に貢献することを目的に、毎年岐阜県内の大学や高専、高校などの研究者に対し助成金を交付しています。2015年度は財団創立30周年を記念した300万円の特別助成を含む28件の研究に対し、総額1,700万円の助成を行いました。また、記念事業として、ノーベル物理学賞受賞者の天野浩教授をお招きし、ご講演頂きました。(詳細は特集4(16頁))



FC岐阜

当社はサッカーJ2リーグに所属する「FC岐阜」をオフィシャルスポンサーとして支援しています。2016年4月には「太平洋工業サンクスマッチ」を開催しました。（詳細は特集4(15頁)）

大垣ミナモソフトボールクラブ

大垣市のクラブチーム「大垣ミナモソフトボールクラブ」の活動を、地域の企業とともに支援しています。



岐阜県で開催のイベントへの協賛

岐阜県で開催される第70回全国レクリエーション大会に協賛し、古田知事より感謝状をいただきました。

地域振興・スポーツ振興

教育・文化・スポーツ支援をはじめ、地域活性化のための活動を推進しています。

十万石まつり

地域活性化と交流促進のため、地元イベントに積極的に参加しています。



ソフトテニス部



【女子】2014年度より日本リーグ1部に昇格し、活動しています。2015年12月の大会では日本リーグ3位入賞を果たし、当社ソフトテニス部女子で歴代最高の成績を収めています。



【男子】2015年9月の「全日本社会人選手権大会」において、吉田・宮田ペアが第3位に入賞しました。これを受け、2016年7月、「第13回大垣市民大賞」を受賞しました。

義援金の寄付

甚大な災害が発生した際は、国内外を問わず、社内で募った義援金の寄付を行っており、台湾地震や熊本地震に義援金を送りました。

従業員によるボランティア活動

当社のボランティアクラブは、バザー等の収益で継続的にカンボジアへの支援を行っており、2015年度は井戸を寄付しました。また、従業員個人や労働組合員の代表者らが東北・熊本などの被災地域で復興ボランティアに参加しました。海外では、韓国の子会社の従業員が工場周辺の美化活動や高齢者療養施設での清掃活動を行うなど、国内外でボランティア意識が高まっています。



カンボジアでのボランティア活動



韓国子会社での美化活動



環境的側面の報告

環境経営の実践

当社では、3つの経営理念のひとつに「環境理念」を掲げるとともに、社会から期待される“良い会社”をめざし、3つの環境方針を定めて、事業活動のすべての段階で環境保全に配慮し、行動しています。

for ENVIRONMENT

W E B 環境への取り組み

S I T E <http://www.pacific-ind.co.jp/csr/environment/>



環境理念

地球環境保全に努め、社会から期待される "良い会社" でありつづけます。



環境方針

- ① 開発から生産、物流、廃棄・リサイクルまでの事業活動を通じて環境改善に努め、全社環境目標4項目を達成する。
- ② 法規制、地域条例、業界ガイドライン、当社自主管理基準を遵守する。
- ③ 環境方針を全社員と取引先に周知徹底するとともに、階層別教育と各種イベントを通して社員の意識向上を推進する。

2016年の環境目的・目標

	目的	目標
1 環境に優しい製品・工法・技術の開発	2015～2020年度までの新技術・新工法開発 累計件数： 150 件以上	2016年度の開発件数： 25 件以上
2 CO ₂ 排出量の削減	2030年度までにCO ₂ 売上原単位を 2007年度比 20% 削減	2016年度は2007年度比CO ₂ 売上原単位を 9% 削減、排出量 23,970 t 以下 CO ₂ 売上原単位を 39.3 t/億円以下
3 廃棄物発生量の削減 (マテリアルリサイクル除く)	2020年度までに 2001年度比 73% 削減	2016年度は 325 t 以内を維持
4 VOC大気排出量の削減	2020年度までに 2000年度比 30% 削減	2016年度は 2015年度比 14% 削減(目標125.9t)

※全て個別数値



ISO14001の取得状況

当社では、ISO14001の認証取得はメーカーとしての必須要件として捉え、グループ会社を含めたグローバルな環境マネジメントシステム(EMS)の積極的な構築と維持に努めています。

環境の外部審査と内部監査

当社では、環境マネジメントシステムの適正な運用及び継続的な改善を図るため、「外部機関による審査」と併せ、「内部監査」と「マネジメントレビュー(トップ点検)」を実施しています。2015年9月に外部機関による更新審査を行い、2018年までの更新登録の認証を受けました。また、内部監査は、相互監査による率直な議論・意見・提案を行う重要な機会とし、全体レベルの向上を図っています。



CO₂排出量の削減

当社は、2015年に採択された「パリ協定」による気候変動への関心の高まりに対応し、地球温暖化対策としてエネルギー源の見直しや省エネ設備への転換による省電力化、CO₂排出量削減に貢献する製品・工法・技術の開発を推進しています。2015年度は、西大垣工場において、従来のLPガス都市ガス化し、CO₂排出量を年間約110t削減しました。

また、岐阜県内の5工場と九州工場では太陽光発電システムを導入・運用しており、電力使用量全体の約5%を太陽光発電による電力で賅っています。



九州工場太陽光パネル



廃棄物の削減

当社は、廃棄物排出量の削減と、発生した廃棄物を再資源化し、埋立廃棄物を削減する取り組みを推進しています。廃ゴムや樹脂などを中心にマテリアルリサイクル化を進めるとともに、総廃棄物排出量の削減に努めています。

2015年度は、西大垣工場に保管していたPCB電気工作物であるコンデンサー26台の処理手続きを進め、2016年6月にPCB特措法に基づき適正に処理しました。



PCB電気工作物の処理



化学物質管理

当社では、国内外の法令を遵守し、原材料に含まれる環境負荷物質の管理・削減を図るとともに、生産工程で使用する化学物質を適正に管理しています。工程改善・代替技術の開発に取り組んでおり、塗料の切り替え、塗装レス製品の開発など、VOC削減に努めています。

2016年3月には、納入品の成分情報調査に採用しているJAMA/JAPIA統一データシート記入方法の勉強会をお取引先向けに開催し、サプライチェーンも含めた環境保全活動と化学物質管理の強化を図っています。



お取引先様向け JAMA/JAPIA統一データシート勉強会





for ENVIRONMENT

環境的側面の報告

地球環境との 調和・コミュニケーション

太平洋工業グループは、自然や地域との共生をめざし、生物多様性保全に向けた取り組みや、環境コミュニケーションの充実を図っています。

WEB 環境への取り組み

SITE <http://www.pacific-ind.co.jp/csr/environment/>

生物多様性の取り組み

当社は、「生物多様性民間参画パートナーシップ」に参加し、生物多様性の保全を重視した自然保護活動を推進しています。

太平洋里山の森活動

太平洋工業グループは、2009年に岐阜県・大垣市と「企業との協働による森林づくり協定」を締結し、同市上石津町の「太平洋里山の森」において、植樹をはじめ様々な活動を行っています。

2016年3月には、従業員とその家族、地元地域の方など約250名が参加し、やまぐりの苗木を植樹したほか、専門家とともに新たなジオトープを造りました。また、里山を整備した際に出る間伐材を使った椅子作りや、森で拾った実や葉を利用したリース作りも行いました。今後も循環型社会や森林・環境問題の理解促進に繋がる活動に取り組んでいく予定です。



間伐材を使った椅子作り

カワゲラウォッチング

当社は、本社・西大垣工場に隣接する小学校が実施する水質調査「カワゲラウォッチング」をサポートしています。これは、身近な河川に住む生き物を採取し、水質保全や環境の大切さを子供たちに知ってもらう活動で、当社従業員は子供たちの安全を見守りながら、一緒に活動し、毎年全員に川の生き物図鑑の下敷きを寄贈しています。



カワゲラウォッチングをサポート

環境コミュニケーション

当社では、各工場の近隣住民の皆様や行政担当者を会社にお招きし、定期的に地域懇談会を開催しています。環境保全や安全、CSRの取り組みをご紹介するとともに、実際に工場内や環境設備を見学いただけます。2016年2月には九州工場、3月には西大垣工場にて懇談会を開催し、意見交換を行いました。

また、メッセナゴヤに継続出展するとともに、中学校や大学で出張教育を実施し、次世代環境教育を行っています。

西大垣工場での地域懇談会



岐阜大学での環境講座

グリーン電力の購入

当社は、大垣市が進めるグリーン電力活用推進事業の一環である、グリーン電力の購入に協力しています。これは、家庭での太陽光発電で発電・消費した電力を「環境価値」として大垣市が買い取り、さらにそれを地元企業が買い取ることで、エネルギーの地産地消をめざすものです。当社は2016年3月にこのグリーン電力30,000kWhを購入し、大垣市よりグリーン電力証書の交付を受けました。グリーン電力の購入を通して地域の太陽光発電の普及・促進に貢献し、企業活動と環境の調和をめざします。

第三者意見

昨年8月に創業85周年を迎えられ、長い歴史を積み重ねられた上に、連結売上高1,000億円台を達成されるという快挙を成し遂げられましたこと、お慶び申し上げます。

本CSRレポートの発行は2007年より始まり、今年で10年目となりました。その初期より弊社も意見を述べさせていただきましたこと大変光栄に存じております。ここでは、御社のCSRの取り組みを継続的に見てきた立場から、今年の報告書について評すべき点を申し述べたいと存じます。

株式会社 OKB総研

大垣共立銀行のシンクタンクとして、銀行と一体となり、地域の産業・経済および暮らしと文化などについての調査・研究を通じて、産業の振興、企業の発展、および地域の皆様のくらしと文化の向上をめざしている。



株式会社 OKB総研

社長 五藤 義徳

今回の報告書では、トップメッセージにおいて企業の持続性のためには社会への貢献が不可欠であることがこれまでになく鮮明に打ち出されていることが注目されます。その確信から、御社にとって「ものづくりを通じた社会課題の解決は最優先課題である」とされており、これまで以上にはっきりとCSRが経営の中心に置かれていることが表されています。

今や自動車産業では、電気自動車や燃料電池自動車など駆動装置において、また、ICTやAIなどを活用した自動運転や衝突被害軽減ブレーキなど運転装置においても大きな変革の波が押し寄せており、時代を画する転換期を迎えています。この転換期にあって、人と車が共生できる豊かな社会を創り出すという社会課題の解決のためには、新たな技術を追及し続けることが欠かせません。

この不断の技術革新を支えるのは人であり、その人を大事にするという御社の姿勢は、初期のCSR報告書から一貫して見ることができます。さらに、グローバル化が進む中、CSRの取り組みも国内外の人財へと拡大してきています。御社のCSRの取り組みを見続けてきた立場から、この一貫した取り組みは高く評価できると思います。

その他に、今回の報告書において、お客様、お取引先様、

従業員、株主様、地域社会といった様々なステークホルダーに対してのCSRの取り組みが報告されており、特に「CSRマネジメント」(p.19-20) および「CSR活動の実績」(p.21-22)にはステークホルダー別に一覧として取り組みがまとめられています。「実績」では取り組まれたことだけでなく、今後の課題として次年度以降に取り組まれることも書かれており、より良い取り組みへの積極的な姿勢がうかがえます。さらに、「マネジメント」のページにおいては、個別のステークホルダーへの対応だけでなく、それを通じた社会全体への目配りから解決すべき社会課題が挙げてあり、ものづくりを通じた社会課題の解決を最優先課題とする姿勢が明確に示されています。

願わくは、人と車が共生できる豊かな社会の実現を目指す御社において、それに向けた具体的なCSRの取り組みについてさらに考え、実践していただきたいと思います。

御社が人を人財として大切にしている取り組みを今後も貫き、その人財に支えられた技術革新によって人と車が共生できる豊かな社会の実現に貢献して行かれることを期待したいと思います。

第三者意見を受けて



CSR担当
取締役専務執行役員

小川 哲史

CSRレポート2016に、貴重なご意見をいただきありがとうございました。今年で10号目を迎えた当レポートですが、この間に、当社を取り巻く自動車業界、社会情勢、社会課題等は大きく変わってまいりました。一方で、当社が変わらず取り組んできた「人財を大切にすること」に関して、一定の評価をいただきましたことは大きな励みとなります。現在は、当社グループ従業員の普遍的な価値観として「PACIFIC VALUES」を策定し、共有する心構えを「夢と挑戦」「信頼と感謝」というキーワードで表しており、国内外で業務・日常生活の判断の拠りどころとしています。今後も継続して「人財」を基軸とした経営を行ってまいります。

今回の報告書では、4つの特集を中心にマネジメントや経済・環境・社会的側面等の取り組みをご報告しました。マネジメントに関しては、コーポレートガバナンス・コードの考え方を踏まえ、あらゆるステークホルダーとの対話を重視した活動を推進しています。今後も積極的な活動を続けていくために、従業員一人ひとりが自発的に仕事のやり方を変え、成果や成長を実感することで、持続的に発展できる企業風土の醸成に注力したいと考えています。そして、ご提言いただきました通り、ものづくりを通じた社会課題の解決に取り組み、次なる課題の抽出と解決策を実行し、価値創造につながる具体的なCSR活動を推進してまいります。

ぼくたち、わたしたちの想い。

表紙の絵は当社グループの従業員の子供たちが環境をテーマに描いたポスターです。

かけがえのない地球を守るために何ができるか…

環境問題は日本だけではなく地球全体で取り組む課題です。

その意識を高める取り組みの一環として、海外拠点も含めてポスター募集を行い、各拠点で展示しています。

子供たちがポスターに込めた心からのメッセージを感じとっていただければ幸いです。



www.pacific-ind.co.jp

PACIFIC 太平洋工業株式会社

〒503-8603 岐阜県大垣市久徳町100番地

TEL : 0584-91-1111 (大代表) FAX : 0584-92-1804

このCSRレポートには、森林に配慮して適切に管理された森林認証用紙 (FSC® 認証用紙)、有害な VOC (揮発性有機化合物) 成分が含まれていない植物油インキ、印刷時に浸し水を使用せず同じく VOC を大幅に低減する水なし印刷が採用されております。

